

保 健 だ よ り

奈良中学校 保健室 : R5. 12. 1



< 学校教育目標:「世界を小とせよ」奈良中生

知性をみがく生徒 愛情深き生徒 体を鍛える生徒 >

11月は、秋から冬へ急速に季節が進みました。1日の寒暖の差も大きく、風邪を引いたり、体調を崩して保健室に来室する生徒がたくさんいました。12月になると、寒さも本格的になり、感染症も流行りだします。体調管理をしっかり行い、最後まで元気に過ごしましょう。

1学年 中学生から考える『生命の授業』



今年度も『くまがやピンクリボンの会』（代表：栗原和江様）から5名の講師の皆様をお迎えして、熊谷市『中学生から考える～生命の授業』を開催しました。

中学生ががん教育を通して、生命（いのち）の大切さを考えるとともに、がん予防や検診の重要性を知る、大変有意義な機会となりました。



講師の『くまがやピンクリボンの会』は2008年に熊谷市の市民活動として設立された団体です。乳がんや子宮頸がんを始め、がん早期発見、早期治療につながる検診率向上のための活動をされています。「中学生から考える『生命の授業』」では、ご自身やご家族の経験を通して私たちに「命の大切さ」や「検診の重要性」を伝えてくださっています。

自分の命には限りがある。生きていることの奇跡を感じながら、一日一日を大切に、自分の命も他の人の命も、全ての命を大切にしたいと仰っていました。そして、最後に、今日の『生命の授業』でのお話をおうちの方にして差し上げてくださいますというメッセージがありました。



～ 生徒の感想の一部を紹介します ～

- ・今、私たちがこうして健康に生きられていることは、当たり前のことではないと知った。また、ガンは早く見つけて治療することで防げることも知った。
- ・2人に1人がガンになると知り、びっくりした。
- ・笑うと免疫細胞が増え、ガン細胞が減ることが分かった。
- ・明日が来ることは普通ではない。1日1日を大切に過ごしたいと思った。
- ・周りの人の笑顔を守りたい。そして、私も毎日笑っていたい。
- ・がんは大人だけでなく、子どもでもなるリスクがあることを知って驚きました。病気で死んでしまう人を減らしたい。そのために、まずは家族に検診へ行ってと呼びかけたいです。